

アンケート調査に至る経過

□2011 年 9 月議会におけるアンケート調査に関する部分

◆16 番（久保田由夫君） 住民の意向調査について伺います。

私は、交流・文化施設の整備には、賛成だけれども、慎重に進めるべきというふうに最初に申し上げました。

慎重に進めるべき内容の一つは、住民の意向調査があります。

市は、住民の意向調査としてのアンケートは行わないと明言をしております。私どもは、どうしても必要だと考えております。なぜなら、主権者は市民であります。計画の概要や事業費、経費を明確にした上で、市民の合意や納得してもらったという客観的なデータが必要です。

長和町でも役場庁舎建設場所についてアンケートを行いましたし、塩尻市でも新体育館、約 29 億円の建設に当たり市民アンケートをとるとの報道がありました。

上田市の対応がどうしても理解ができません。この際、議員の政治活動として住民の意向調査を行う方向で検討に入っています。この場合、アンケート結果を尊重していただけるかどうか伺いたいと思います。

最後に、立ちどまって検討すべきということで、野田新内閣が誕生いたしました。東日本大震災における被災者支援、復旧、復興には何よりも財源が必要となります。すでに増税の議論もされています。上田市の滞納状況を見ても、市民生活はますます厳しくなることが予想されます。国の来年度の予算編成もよく見る必要があります。今は、立ちどまって考える勇気も必要だと思いますが、市長の見解を伺い、私の質問を終わります。

◎政策企画局長（宮川直君） アンケートについてのご質問でございます。

これまで市といたしましては、方針決定前に市民アンケートを数回にわたって行い、そして各種の検討、市民説明を重ねた上で、16 万市民を代表いただきます市議会の場で方向づけをしていたいてまいりました。これまで基本設計の内容、市民説明、そして広報でもお示しをしてまいりました。次のステップといたしましては、より具体的なご意見やご要望をいただき、施設をどう生かし、育てていくかという議論に入っていると考えてございます。

択一的なもので賛否を問うアンケート調査ではなく、具体的なご意見をお聞きする段階と考えてございます。

私どもといたしましては、市民のご意見をいただき、場面、場面で 16 万市民の代表であります、この市議会の場で議論をいただきながら進めてまいり所存でございます。

ただいまの久保田議員さん方が議員活動としてアンケート調査を行われるということ、そしてその結果で議員の皆さんが政治判断をされることについては市として言及する立場にはないものと

考えてございますので、よろしくお願いいたします。

◎市長（母袋創一君） 時間もございません。簡潔に申し上げます。

私どもは、市の多い、たくさんのこの事業をしてくるに当たって、常に立ちどまったり、見直したり、検討したり、議論したり、そういうことで進めてまいりました。このことが上田の新時代を築いていくものと思い、これまでも確実に進めるべきものは形としてしてきたと、このように思っております。

震災関係においては、まず国が責任を持って財源等を含めたしっかりとした道筋を立て、有効な施策を着実に進めていくべき、このように考えております。

大切なことは、日々の市民生活を守るため、きめ細かく対応することと、未来の上田市のあるべき姿を見据え、着実に進めていくことを同時にしっかりと取り組んでいくことであろうと思います。こうした両方の視点からの対応が、これまで戦略的な財政運営を進めてきた中で健全財政を維持し、そして財政的な視点からも十分可能であると、私も何度もこの件について申し上げてまいりました。この交流・文化施設の整備につきましては、施設整備に向けたさまざまな条件も整ってまいりましたし、課題も整理されております。今こそタイミングであり、チャンスであろうと考えます。未来の上田を、より風格が漂い、魅力にあふれ、住んでよかったと誇れる都市として築き上げていくために、これからも勇気を持って一步一步確実に歩みを進め、来年度への準備を整えてまいりたいと、このように考えております。